

地域課題・目指す将来像

地域
課題

- 人口減少や高齢化の進展によって町運行バス「う・ら・ら」が減便するなど交通インフラの維持が困難。
- 特に、町内の生路・藤江小学校区は狭隘な道が多く、交通手段の無い「交通空白地域」となっており、地域交通システムの維持と改善が課題。
- 公共交通の運転手が不足する中、共助交通を推進し交通弱者支援を強化する必要がある

将来像

- 未来技術を活用した効率的で安全な移動の実現
- 住民主体の持続可能な地域交通モデルの構築による、生活の質の向上や地域経済の活性化

推進体制

名称：東浦町未来技術地域実装協議会

地方公共団体	東浦町
国（★は現地支援責任者）	★国土交通省 中部運輸局 国土交通省 中部地方整備局 道路部 計画調整課 デジタル庁 国民向けサービスグループ 警察庁 交通企画課 総務省 東海総合通信局 情報通信振興課 内閣府 科学技術・イノベーション推進事務局 内閣府 地方創生推進事務局
民間事業者	知多乗合株式会社、愛知県タクシー協会知多支部
大学等	名古屋大学

課題解決に向けた取組

① 自動運転車両（End-to-End学習型AI）【自動運転】

○ 地域交通空白の解消

- ・ 交通空白地となっている生路・藤江小学校区に、高齢者や移動困難者を対象とした共助版ライドシェアを構築し、地域住民によるボランティア運転手体制を拡充。
- ・ 同時に、自動運転技術を仕組みに転用することで運転手不足の課題を解消し、持続可能な交通モデルを実現する。

○ 未来技術の導入

- ・ 自動運転AI技術(End-to-End学習型AI※)を活用した車両の社会実装を進めることで、安全性を確保しながら柔軟な移動選択肢を提供。

※End-to-End学習型AI

カメラやセンサーからの入力（入力データ）をそのままニューラルネットワークに入れ、ハンドル・アクセル・ブレーキの操作（出力データ）を直接導き出す技術のこと。「認識から制御まで一気通貫」で行うため、「End-to-End」と呼ばれ、より人間らしく滑らかで、複雑な状況でも対応可能な完全自動運転への転換点として注目されている。

○ 連携による推進体制の構築

- ・ 地元住民、民間事業者、大学、行政が共同で参画し、持続可能な交通システムを目指すコンソーシアムを構築。



乗用車タイプの自動運転車両
（イメージ図）